

令和6年度

文化部活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

青森県むつ市

自治体名：青森県むつ市

担当課名：むつ市教育委員会 地域クラブ企画推進課

電話番号：0175-22-1111

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	864.20 km ²
人口	51,606 人
公立中学校数	9 校
公立中学校生徒数	1,223 人
部活動数	14 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

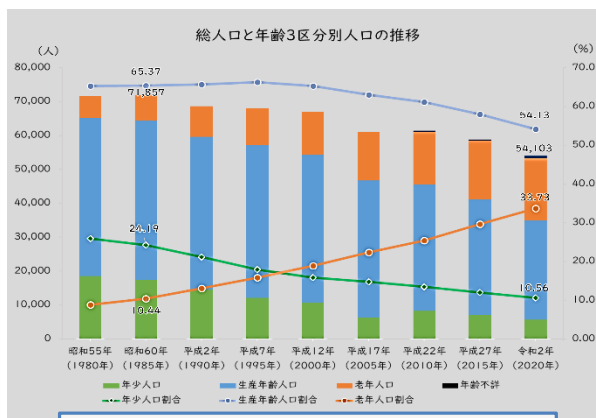
国立社会保障・人口問題研究所によると、本市は、国や青森県よりも速いスピードで人口減少が進行すると推計されている。

市内中学校に在籍する生徒数は、令和6年5月時点で1,223人であることにに対し、令和16年には834人にまで減少する見込みである。

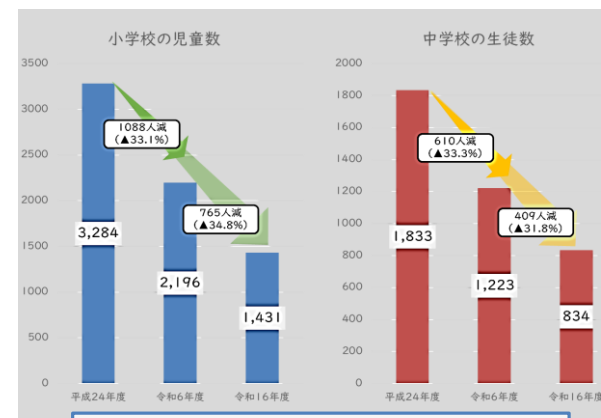
令和6年4月に吹奏楽部を地域移行したことにより文化部活動は全て移行が完了しているが、地域移行前に文化部活動を設置していた中学校は8校あり、そのうち吹奏楽部以外が設置されていたのは3校のみであったことからわかり、本市における中学生の文化部活動への参加は

限定的な環境であった。

このため、今後の生徒数の減少も見据えながら、令和5年度より「むつ市地域文化・スポーツクラブ（愛称：むつ☆かつ）」を設立し、生徒の新たな放課後活動の受け皿として、中学校部活動の段階的な地域移行を進めているものの、県内で最大の面積を有する本市においては、移動に時間を要することに加え、都市部と比べて指導者が不足している中、教職員の働き方改革の観点からも、新たな指導者の育成と確保が最大の課題となっている。



出典：1980～2020年 総務省「国勢調査」

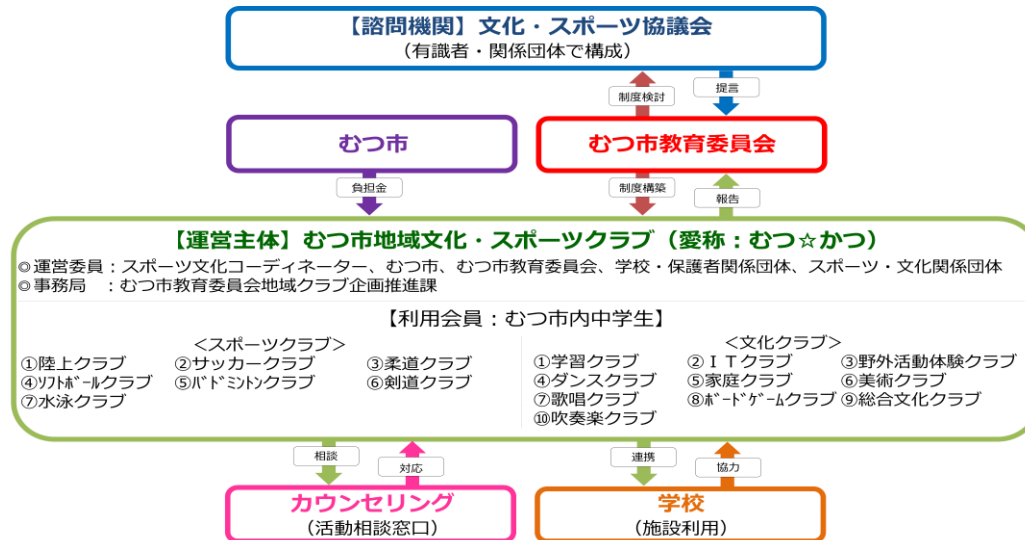


出典：むつ市教育委員会調べ

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・部活動地域移行に関する検討、制度構築
- ・むつ市地域文化・スポーツクラブ運営委員としての参画
- ・むつ☆かつの運営事務局

◎首長部局

- ・運営資金の負担
- ・むつ市地域文化・スポーツクラブ運営委員としての参画

年間の事業スケジュール

令和6年4月	むつ☆かつ総会
令和6年4月	むつ☆かつクラブ活動開始 (体験入会期間を含む)
令和6年7月	生徒・保護者アンケート
令和6年10月	教職員アンケート
令和7年1月	新入学予定者説明会 在校生説明会
令和7年2月	指導者更新研修会
令和7年3月	文化・スポーツ協議会
その他、随時	校長会等への進捗説明

2.実証内容と成果



地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	9 校	実施した地域クラブ総数	10 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		6 クラブ（14 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		4 クラブ
全体の指導者数	147 人	全体の運営スタッフ数	24 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
むつ市地域文化・スポーツクラブ（むつ☆かつ）	行政主導で設置	IT 学習 歌唱 家庭 ダンス 美術 ボードゲーム 野外活動体験 総合文化 吹奏楽	週 4 回 平日 3 回 土曜 1 回 吹奏楽のみ 週 5 回 平日 4 回 土曜 1 回	平日 17：00 ～ 18：20 土曜 9：00 ～ 12：00	308名 1年117名 2年137名 3年 54名	令和6年 4月から 令和7年 3月まで	下北文化会館 学習センター 海と森ふれあい 体験館 中央公民館 など	86 人	24 人 （内、兼務0 人）	月会費 1,000 円	むつ桜まつり 下北文化祭 市内ダンス大会など 各種イベントに 地域クラブとして参加

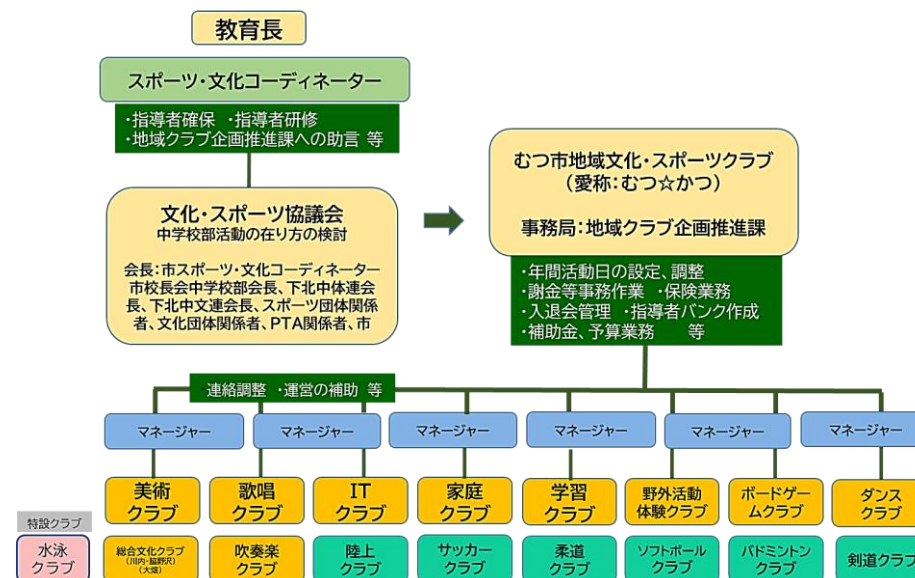
2.実証内容と成果

主な取組例

●むつ市地域文化・スポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	IT、学習、歌唱、家庭、ダンス、美術、ボードゲーム、野外活動体験、総合文化、吹奏楽
運営団体名	むつ市地域文化・スポーツクラブ
期間と日数	令和6年4月から令和7年3月まで 吹奏楽以外：週 4 回 吹奏楽：週 5 回
指導者の主な属性	地域住民 教職員 自衛隊、市職員、消防職員など
活動場所	下北文化会館、学習センター、海と森ふれあい体験館、中央公民館など
主な移動手段	むつ☆かつバス、徒歩、自転車、保護者の送迎
1人あたりの参加会費等（月額）	1クラブにつき1,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 ※むつ☆かつで負担 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：800円/年 ただし、ダンス、野外活動体験については指導者1人あたり：1,850円

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●指導者

役割：生徒への技術的指導、自らの経験を活かした文化活動の共有

●クラブマネージャー

役割：生徒の出欠確認、スケジュール調整、活動場所の予約・確保、大会（イベント）参加申し込み、ケガ等応急対応、その他クラブのマネージャー業務

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

むつ☆かつが運営主体となり、地域移行した部活動に代わる地域クラブを立ち上げ、活動場所の確保や指導者の配置等を調整し、中学生の活動に必要な環境を整えることで、生徒の放課後部活動の受け皿としての役割を果たしている。

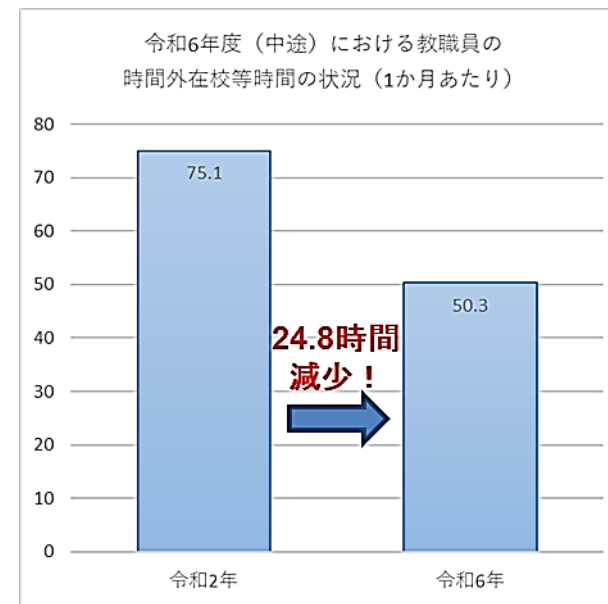
取組の成果

学校部活動とは異なり、複数の学校の生徒で構成するクラブ活動であることから、クラブ毎に活動場所を集約し、各学校と活動場所とを結ぶ移動手段を確保することで、小規模校の生徒であっても活動の選択肢が制限されない。

また、クラブ毎に指導者を募集しており、指導は地域の方々の協力により行われていることから、教職員の負担軽減の一助となっている。

具体的には、むつ☆かつ開始以前（令和2年度）における中学校教職員の時間外在校等時間の平均が75.1 h /月だったものが、令和6年（年度途中まで）の平均では50.3 h /月と、24.8 h の削減となっている。

これは、各学校の公務改善の成果も含まれるものであるが、地域移行の影響もあると捉えている。



出典：むつ市教育委員会調べ

コーディネーターの具体的な動きの実績

むつ☆かつの実際の活動視察をはじめ、運営方針や体制への助言、東京大学をはじめとする都市圏の大学生との連携・協力体制の検討、文化部活動地域移行の先進地視察、当地域での展開についての検討等、各方面でご尽力いただいている。

今後の課題と対応方針

生徒や保護者、関係者などから、現在は未実施の活動を要望する声がある（茶道、華道、ドローン、e-スポーツなど）。

新たな活動を実施するにあたって、指導者や活動場所の確保が重要な課題となっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

一般公募により、自薦によるエントリーを受け付けた後、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を踏まえた指導者研修会及び普通救急救命講習を修了した方に指導要請書を発出している。

人材バンクの人数

00086名

人材バンクの年齢構成

10代	0002名
20代	0016名
30代	0020名
40代	0022名
50代	0007名
60代以上	0019名

登録者属性

地域住民：60名
教職員：5名
その他公務員：21名

1,600円/時の報酬
+費用弁償

種目

IT：9名 学習：9名
歌唱：6名 家庭：9名
ダンス：9名
美術：5名
ボードゲーム：5名
野外活動体験：16名
総合文化：5名
吹奏楽：13名

資格有無

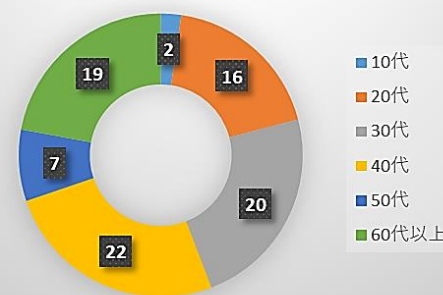
エントリーを受ける際には、指導者資格は必須としていない。

取組の成果

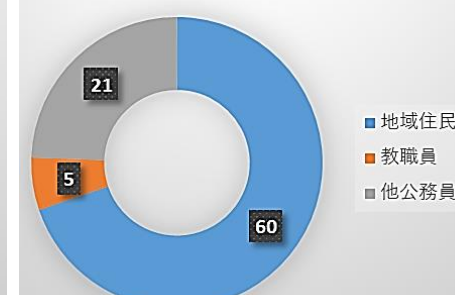
これまで専門外だった教職員が顧問として指導に当たることがあった場合と比べ、より専門性の高い指導者が技術指導に当たることによって、生徒の技術力の向上に繋がっている。

また、家庭クラブや野外活動体験クラブでは、指導者自身の経験を活かし、知識や技術を生徒に伝えていただく活動をお願いしていることから、指導者として気軽にエントリーしてもらえているため、指導者数も一定数確保することができている。

年代別



人数



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

昭和大学ストレスマネジメント研究所の所長兼教授、中尾睦宏氏をお招きし、心療内科医の視点から、指導者として子どもたちとどう接するか、ご講話いただいた。

- 1.指導者として、成長著しい生徒への上手な接し方
- 2.指導者自身のストレスへの正しい理解と対処法
- 3.生徒に向けた指導の「動機づけ」のイロハ

また、指導者数名でグループになり、今年度の振り返り、必要物品の確認、要望等を協議した。

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 2月15日
- ・開催回数： 1回
- ・参加人数： 78人

本研修の受講が、来年度の活動で指導にあたるために必須

今回受講できなかった指導者については、別日に再度研修会を実施予定

受講者の声

研修会終了後のアンケート調査において、約91%の指導者が研修に満足していると回答が得られた。

講義の内容が面白く参考になった、子どもたちとの接し方を考え直すきっかけになった、ストレスの管理について学ぶことができた、などの声が聞かれた。

今後の課題と対応方針

研修内容について、生徒の技術向上に繋がる研修や、生徒とのコミュニケーションや声かけなど実践的に体験できる研修を希望する声があった。

これまでの指導者研修はスポーツ選手の招聘等による技術指導が中心であったが、今後は、中学生のメンタル的な理解や人格形成に資する内容のものを定期的に、そしてステップアップする形で開催していくことが課題と考えられる。

そのことを踏まえ、指導者に必要な研修内容を考慮すること、そのための講師の人選等を検討していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

学校関係者、文化団体、スポーツ団体等で構成される文化・スポーツ協議会による部活動の地域移行に関する方針や、各文化団体等との協議を踏まえながら、地域の実状に沿った地域展開を推進している。

関係団体等からの意見を踏まえた取組とすることで、地域の課題や実状を勘案しての運営となっている。

取組の成果

運営主体であるむつ☆かつは、自治体からの負担金を原資としていることから、多面的な意見が反映されるよう運営している。

その中でも、取組の初期段階として、学校との連携を重視し、校長会での情報共有等により、学校行事に影響がないように活動スケジュールを調整している。また、学校終了からクラブ活動開始までが時間的なロスがなく行われている。

文化・スポーツ協議会メンバー

スポーツ・文化コーディネーター、スポーツ協会会長、文化団体協議会会長、連合PTA会長、校長会中学校部会長、下北地方中学校体育連盟会長、下北地方中学校文化連盟会長、市長部局各部長

今後の課題と対応方針

市内において、むつ☆かつの認知度が上がってきており、イベント出演や作品の制作依頼などを受けることが多くなってきた。

生徒の意欲向上を第一にしながら、地域クラブの活動が地域振興にも資するよう取り組んでいきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

県内で最大の面積を有する本市は、学校から活動場所までの移動に40分以上の時間を要する場合がある。

路線バスでの移動は不可能であるため、各学校から活動場所を繋ぐバスを運行することで、地域によって活動に格差が生じないよう取り組んでいる。

バス等の運行実績

- ・日数 151日（4月から1月まで）
- ・むつ☆かつに参加する全ての生徒が利用可
- ・運行経路は別紙のとおり

バス等の運行経費・収入

- ・運行委託料
4月から1月までで、約5,350万円
月平均 約485万円
- ・利用料
月額1,000円の会費に含む

各自治体の役割、事務局運営

他自治体との連携した取組はないが、事務レベルでの情報共有は行っている。

当地域では、地理的に中央が山岳地帯である半島地域という環境と、公共交通が非常に脆弱である状況から、簡単に連携できる環境にはない。

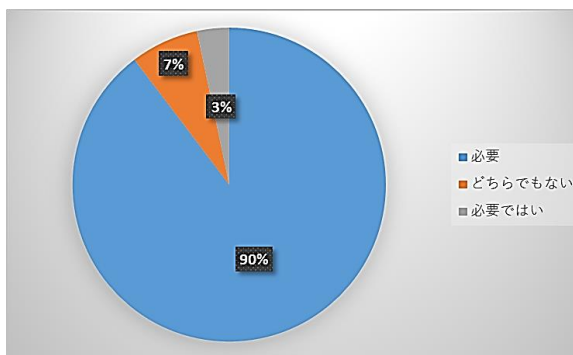
運動部活動の場合、チームの選手人数の関係から市町村の枠を超えた連携を希望する声もあるが、文化部活動において、吹奏楽以外は部員数（クラブ員数）に影響されることがほぼ無いこともあり、自治体が連携していく段階には至っていない。

取組の成果

小規模校の生徒であっても、中心部の生徒と同様の活動機会を得ることができることから、市内全生徒の公平性を担保した取組となっている。

保護者アンケートにおいても、バスは必要だと思いう回答が90%を占めている。

多額の費用を支出しているが、公共交通が脆弱で、かつ、行政面積が広い本市において、できるだけ多くの生徒が活動できる環境を作るためには、移動手段の確保は必要である。



出典：令和6年度むつ☆かつ保護者アンケート

今後の課題と対応方針

本市の生徒が等しく活動できる環境を作るためには、移動手段の確保は必須である。

学校部活動では、生徒は基本的に同じ学校で活動していたが、地域移行において、本市のみならず多くの場合は活動場所を集約せざるを得ないものと考えられ、その際、生徒の移動の負担を誰が負うべきなのか検討する必要がある。

国や都道府県の支援も求めたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

●吹奏楽クラブの例

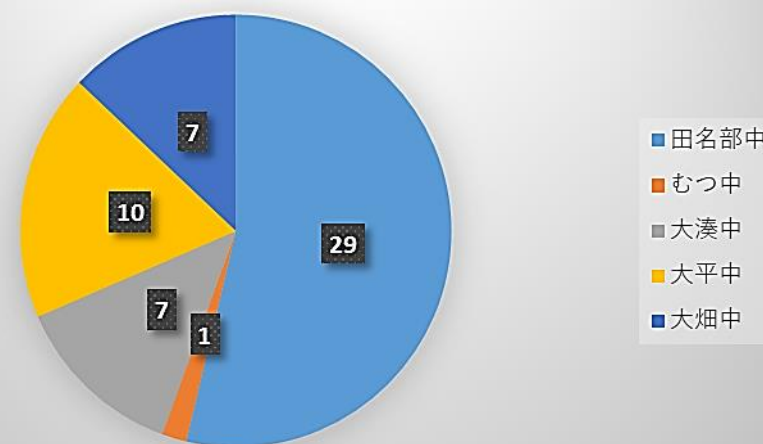
中学校部活動の地域移行以前は、市内9中学校のうち7校に吹奏楽部は存在していたものの、学校の規模によって生徒数もまちまちで、小規模校ではオーケストラが組めない状況となる。

地域移行後はオーケストラ、アンサンブル、ソロ等、様々な形態で音楽に取り組むことができおり、生徒の満足度も非常に高い。

●ITクラブの例

これまで中学校部活動としては取り組まれていなかったジャンルであり、指導者は動画編集、タイピング、プログラミング、資格取得のための技術習得等、自らの得意分野の指導をしてくれている。

吹奏楽クラブ所属生徒の学校割合



今後の課題と対応方針

令和6年度で全ての中学校の文化部活動を地域移行しており、むつ☆かつが地域移行における受け皿としての役割を十分に果たしているが、一方で、現在は未実施の活動を要望する声もある（茶道、華道、ドローン、e-スポーツなど）。

内容の充実という観点から、指導者及び活動場所の確保、必要資機

材の確保、活動の継続性、どの程度の水準でそれらの活動を実施するか等、検討を進めていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

当クラブの会費は、各学校における部費に相当する金額を調査し、同等の金額として、月額1,000円に設定している。

地域移行を進める際に、指導者には報酬を支払うこととし、各クラブには指導者をサポートするとともに大会出場などの事務手続きを担当する市の会計年度任用職員であるマネージャーを配置することとした。

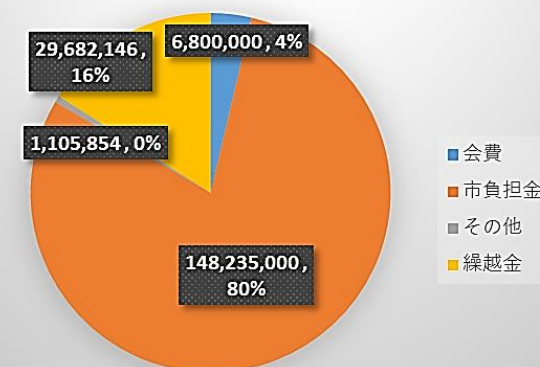
このことにより、市の財政負担が数千万円レベルで増えることとなったが、現状では、部活動と同等の費用負担としており、そのこと自体が保護者への支援になっている。

財源の確保については、企業と協定を締結するなどして寄附金も得ているが、地域移行に要する経費の中では微々たるものである。

なお、就学援助費の対象になっている家庭に対しては、会費を免除している。

地域クラブに係る経費

むつ☆かつにおける歳入（予算ベース）の割合



出典：むつ市教育委員会調べ

今後の課題と対応方針

学校部活動における問題の1つは、教員がほぼ無償で指導を担ってきたことである。

そのような背景を踏まえ、また、今後も地域移行を持続的に展開していくためには、指導者への報酬の支払いは必須であると捉えている。

受益者負担の観点から、会費の増額について、保護者の理解を得られるよう取り組む必要があると考えているが、過度な負担を求めることはできない。

このことは、全国的な課題でもあることから、国や都道府県による支援制度が作られることを期待したい。

もちろん、自治体として企業からの支援を募るなどの財源の獲得にも努める必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

文化クラブは、活動場所を集約することで、場所の確保や調整に要する労力の軽減を図るとともに、指導者の効率的な配置を行う。

取組の成果

9クラブの活動場所を下北文化会館に集約することで、活動内容や参加人数等に応じた部屋割が可能になるなど、場所の確保や調整に要する労力を大きく軽減することができた。このことは、生徒が興味のある活動に気軽に参加できる環境づくりにもつながった。

また、活動場所が定まっているため、様々な職種にある指導者にとっても参加しやすい環境となっている。

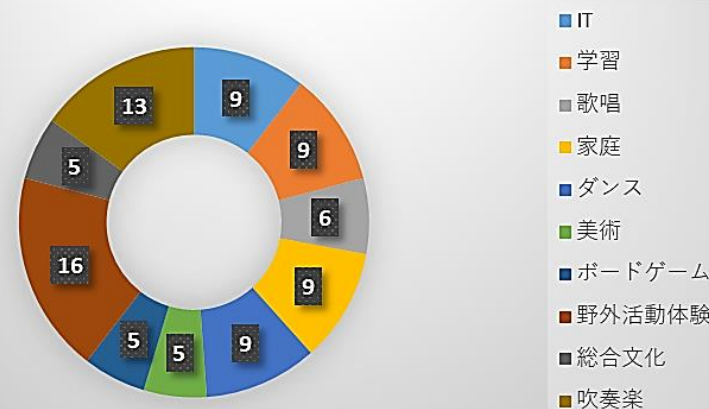
なお、旧川内町・脇野沢村地区からは遠距離になることを考慮して、下北文化会館のほかに海と森ふれあい体験館で総合文化クラブを実施し、主に両地区の生徒を対象に、様々なジャンルの活動を行っている。

今後の課題と対応方針

生徒や保護者、関係者などから、現在は未実施の活動を要望する声がある（茶道、華道、ドローン、e-スポーツなど）。

新たな活動を実施するにあたって、指導者の確保と並行しながら、活動場所の検討、確保が必要である。

文化クラブの指導者数



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

これまででは部活動の顧問が処理してきた大会出場に係る事務やスケジュール管理のほか、資機材の調達等について、本市の会計年度任用職員がマネージャーとして従事し、業務の一環として処理している。

取組の成果

指導者には、各クラブでの技術的指導を中心をお願いすることで、負担感の軽減につながっており、それによって指導者確保の一助となっている。

指導者の属性や配置の工夫

- ・指導者の属性
これまで部活動の指導を担ってきた教職員のみに頼ることがないように、広く一般公募し、地域住民にも指導を依頼している。
- ・配置の工夫
特定の指導者に負荷が偏らないよう、マネージャーがスケジュールを調整している。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

本市では、平日と休日で指導方針に差が生じないように、平日・休日問わず全ての活動を地域移行している。

なお、地域移行に際して、活動内容、大会参加、使用物品等の確認をするなど、事前に部活動顧問の先生と情報共有に努めている。

今後の課題と対応方針

指導者の質の向上及び人数の確保については引き続き継続して取り組む。
また、指導者が固定化すると活動内容がマンネリ化することもあるため、今後も継続的に指導者を募集し人数を増やすことで、充実したクラブ活動を展開していきたい。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度は、新たに吹奏楽クラブを地域移行し、文化部活動は全て地域移行することができた。

運動クラブにおいては、新たに4つのクラブ（陸上、バドミントン、ソフトボール、剣道）が増加し、それに伴いむつ☆かつに参加する生徒数、クラブマネージャーや指導者の総数、バスの路線数、活動場所等、むつ☆かつが全体的に拡張され、必要経費も令和5年度と比較して約20%増加した。

令和5年度当初予算：159,892千円

令和6年度当初予算：191,990千円

運営している中で様々な課題が浮き彫りになった。

一例としては、「多くの生徒をバスで移動させて同じ時間帯に活動しているため、個々のクラブの動きに合わせる事が難しい」、「参加生徒が増えることで指導者の目が行き届かないところでの生徒間のトラブルが発生する」といったこともあり、検討課題もあるが、学校、関係団体等からの支援、協力をいただき、年間を通して円滑に運営することができた。

●成果の評価

生徒及び保護者に対するアンケートの結果、「むつ☆かつに満足している」という回答が80%を超えており、中学校部活動の地域移行の受け皿としての役割は概ね果たしている。

また、教職員の時間外勤務時間も減少傾向にあり、教職員の働き方改革の一助にもなっているものと思われる。

他の学校の生徒と交流し、切磋琢磨できる新しいコミュニティの場にもなっており、学校では不登校気味でもむつ☆かつには元気に参加できているという喜ばしい事例もある。

●今後に向けて

令和7年度には全ての学校部活動が地域移行するため、活動の規模は更に大きくなり、生徒の出欠管理、活動場所の確保、指導者のスケジュール調整など、今まで以上に時間を要することになる。

そうした中でも今年度同様、円滑な運営を実施するため、学校、関係団体と密に連携し、情報共有に努めていく。

むつ☆かつは、市教育委員会が事務局になって運営しているが、将来的には、専門的に当該事務を担うことができる団体に移管するべきであると考えている。

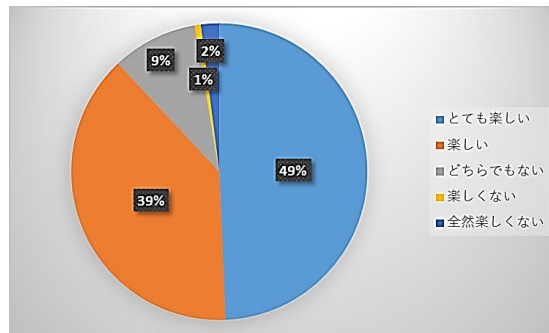
また、本業務を進める中で「小学生も対象にして欲しい」といった声もあり、そのような要望についても実現できるよう、業務の担い手とクラブ運営の枠組みについて検討していく。

2.実証内容と成果②

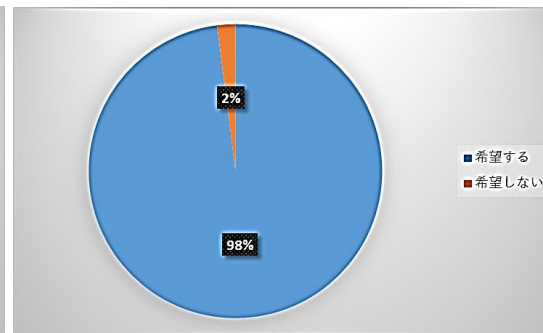
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

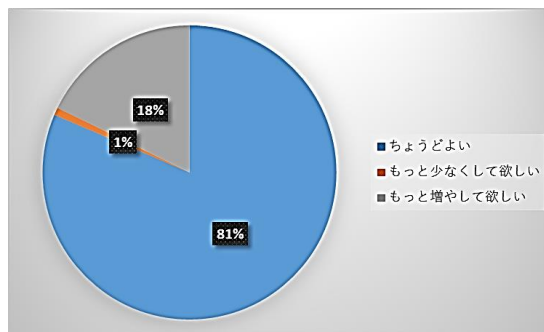
Q.（生徒）むつ☆かつは楽しいですか？



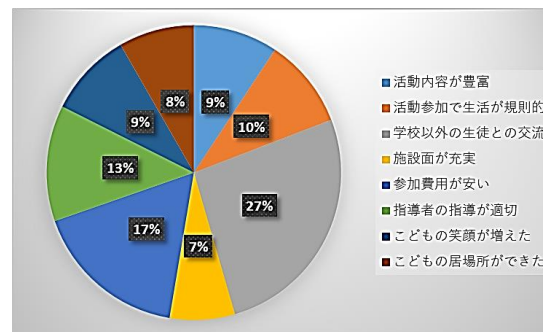
Q.（生徒）今後もむつ☆かつへの参加を希望しますか？



Q.（保護者）むつ☆かつの活動日数について教えてください。



Q.（保護者）現在所属しているクラブの良い点はどんなところですか？



●参加者の声

楽しい、と答えた生徒

他校の生徒と交流できて、今まで話した事のない生徒と話せて交流の機会ができたから。

先生やコーチたちがわかりやすく教えてくれるし、面白いから。 など

参加を希望する、と答えた生徒

楽しみたい、上手になりたい、充実している、人間的に成長したい、友達を作りたい、など

保護者からの意見（肯定的）

こどもの興味のある活動ができている、他校の生徒と一緒に活動することによって切磋琢磨し高め合っている（記録にも表れている）、将来につながりそう、視野が広がって知識が増えそう、など

保護者からの意見（否定的）

保護者が送迎だと参加したくてもできないときがある、活動があるときとないときの差がありすぎる、活動場所が遠い、ちょっとしたわからないことを聞く窓口が不足している、など

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

むつ☆かつへの入会に際して必要な情報をまとめた入会案内パンフレットを毎年作成し、新年度中学1～3年生になる対象者全員に配布している。

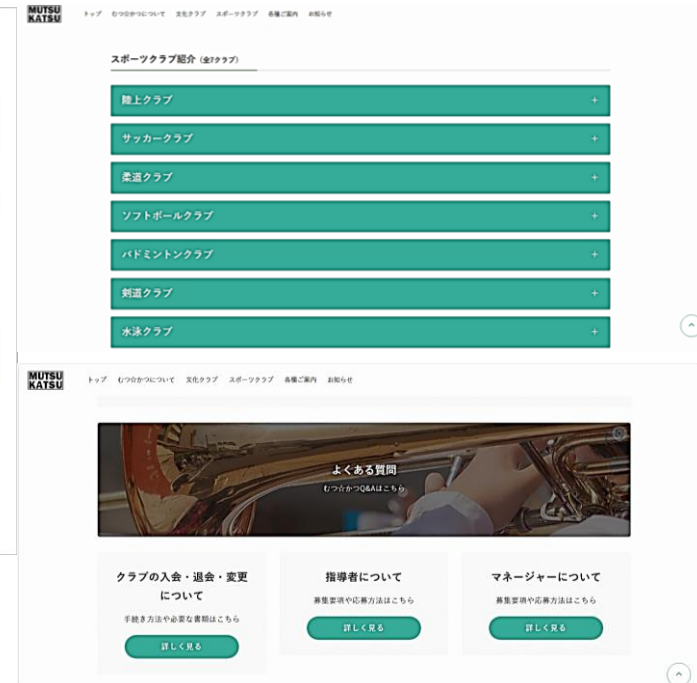
また、各クラブの活動スケジュールや活動内容、むつ☆かつ以外の一般ク

ラブの状況等をまとめたホームページも作成し、情報発信に努めている。



【入会案内パンフレット】

むつ市地域文化・スポーツクラブ作成



【むつ☆かつホームページ開設】

むつ市地域文化・スポーツクラブ作成

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【学習クラブ活動風景（ジオ）】



【ITクラブ活動風景】



【美術クラブ活動風景（ハーバリウム）】



【吹奏楽クラブ活動風景（キャンパス祭）】

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年10月25日

地域文化・スポーツクラブ設立準備室設置、検討開始

指導者の選定、活動場所の選定

学校現場との調整

生徒、保護者への説明

令和5年4月～

地域クラブ活動の開始

令和6年4月～

地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー

スポーツ・文化コーディネーター、スポーツ協会会長、文化団体協議会会長、連合PTA会長、校長会中学校部会長、下北地方中学校体育連盟会長、下北地方中学校文化連盟会長、市長部局各部長

●経過

令和4年度に、中学校部活動の地域移行の受け皿となる「むつ市地域文化・スポーツクラブ（愛称 むつ☆かつ）」の設立に向けた、地域文化・スポーツクラブ設立準備室を設置し、中学校部活動を段階的に地域移行していくための検討を開始した。

令和5年度にはむつ☆かつの活動を開始し、実際にクラブ活動を運営しながら、更に地域移行する部活動の検討を実施した。

開始に至るまで、学校や競技団体と連絡、調整しつつ、指導者や活動場所の検討、選定、新入学予定者説明会等にお邪魔しての生徒、保護者への説明を実施し、関係各者からの理解が得られるよう努めた。

それらについては、地域クラブ活動開始後も同様に引き続き実施し、更なる理解、協力が得られるよう努めている。

●実施内容

令和5年4月から、市内全9中学校の文化部活動及び一部の運動部活動を取りやめ、地域クラブ活動へ移行。

令和6年度には文化クラブ10、運動クラブ7の地域移行体制で活動を実施中で、令和7年度には全ての中学校部活動が地域移行する計画としている。

●実施にあたって生じた課題

本市では、むつ☆かつの指導者として活動しやすい職場環境の整備を記者会見等で呼びかけているが、平日の活動時間が17時からであり、勤務時間と被ってしまうことから、指導者の確保が難しい状況である。

●今後の展開

令和7年度には、全ての中学校部活動が地域移行することから、指導者の確保をはじめとする運営体制の更なる拡充を図る。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	2023年度 (R5年度)	2024年度 (R6年度)	2025年度 (R7年度)	2026年度 (R8年度)	目指す姿
県	実証事業委託金の契約締結、申請書類等作成支援、情報提供				○教職員の働き方改革の推進 ○文化・スポーツ活動の推進 ○持続可能な運営体制の確立し、将来にわたって ○の中学校活動と地域の移行の受け皿として、生徒
	実証事業委託金の契約締結、申請書類等作成支援、情報提供				
市	他自治体における地域移行に関する各種情報提供				
	スポーツ・文化協議会の開催（年1～3回）				
			むつ☆かつの運営を担う地域団体等の調査、検討	むつ☆かつの運営を委託…？	
	アンケート等で課題の洗い出し	課題への対応、新たな課題の洗い出し			
	活動場所の検討、決定、確保	学校施設や市有スポーツ施設の利用検討、交渉、決定、確保			
	学校との連携、生徒への連絡体制の協力依頼、バス利用生徒の安全確保				
	校長会等での情報共有、新入学予定者説明会等にお邪魔してのむつ☆かつの活動内容について説明				
	クラブマネージャーの募集、採用、研修会等開催、労務管理				
	スポーツ教室、東京大学を含む首都圏大学との連携等				
	クラブ団体	吹奏楽を除く文化部と一部運動部を運営開始	吹奏楽部と各種大会出場条件をクリアした運動部を運営開始	残り全ての運動部を運営開始	
移行したクラブは、平日、休日ともに活動					
地域人材（指導者）の募集、研修会実施、指導依頼					
会費徴収（学校部活動時と同程度の負担として1,000円/月）、クラブ毎の会費設定を検討			クラブ毎の会費設定		
むつ☆かつバス運行		むつ☆かつバス路線増加	むつ☆かつバス路線を更に増加、持続可能な運行体制検討		
市職員への指導者協力要請					